

# ほむ・ほむ通信

No.25

## ユニセフリーダー研修・交流会が開催されました～東・西会場～

日本ユニセフ協会と日本生協連との共催で、ユニセフリーダー研修・交流会を、8月23日～24日にユニセフハウス（東京・品川）、8月26日～27日には厚生年金会館（大阪・四ツ橋）にて開催しました。

この研修・交流会は、全国の生協でユニセフ協力活動に取り組む組合員・役職員などを対象に、ユニセフが行う国際支援活動についての理解を深めるとともに、生協でのユニセフ協力活動をより広げていくことを目的として、3年前から開催されているものです。今年の研修・交流会には、ユニセフハウス（東日本会場）には15生協・2日本ユニセフ協会地域組織から42名が、厚生年金会館（西日本会場）には13生協・2日本ユニセフ協会地域組織から39名が参加して、ユニセフ現地報告の学習や活動交流、そしてこれからのユニセフ協力活動を考えるワークショップなどを取り組みました。

そのうち東日本会場では、冒頭日本ユニセフ協会事務局長である早水研氏からご挨拶をいただきました。そして、活動事例報告として神奈川ゆめコープから報告をいただいた後、グループ単位で活動交流をおこないました。なお西日本会場の活動事例報告は、京都生協からいただきました。

ユニセフ現地報告では、ユニセフ駐日事務所の勝間靖さんから、ご自身のアフガニスタン勤務の経験から、アフガニスタンの教育支援に焦点をあてた報告をいただきました。勝間さんとは夕食をはさんで懇親会を設け、アフガニスタンの人々や風土、そして駐日事務所での仕事など幅広いお話しを伺いました。

2日目は、ベーシックコースとアドバンスコースに分かれて、ワークショップを取り組みました。

初日		2日目	ベーシックコース	2日目	アドバンスコース
13:00	受付	9:00	プログラム3 ユニセフ基礎知識講座と ワークショップ体験	9:00	プログラム3 ユニセフ中期戦略計画と日 本エセフ協会 生協とユニセフ活動
13:30	プログラム1 ・アイスブレーク ・グループ別活動交流				
15:30	休憩	10:30	休憩	10:30	休憩
15:40	プログラム2 ・ユニセフ現地報告 ・質疑応答	10:40	プログラム4 ・活動事例紹介 ・今後のユニセフ活動に向 けて意見交換	10:40	プログラム4 ・今後のユニセフ活動づく りに向けて
17:40	休憩・移動	12:30	終了・解散	12:30	終了・解散
18:00	夕食交流会（20:00終了）				



## <東日本会場・活動報告>

### 神奈川ゆめコープ

渡邊百合子さん（平和・国際交流委員会）

店舗のないコープですが、お年玉募金・緊急募金はOCR注文用紙での募金、そのほか、配送職員さん的心強い協力（配送時に組合員さんから預かってきてくれます。）で、「一人一人は小さくてもみんなの気持ちが集まるところにたくさんに！！」を実行しています。ユニセフに限らずさまざまな団体を応援しているのも特徴です。

外国コイン…100kg以上も集まって、うれしい悲鳴。委員会のメンバーとお手伝いの人たちで国別に仕分けし、ユニセフ協会へ送ります。



書き損じはがき…年明けの年賀状があわったころ呼びかけます。郵便局で切手にかえて日本民際交流センターへ送ります。（タイの子どもの奨学金となります。）

各種使用済みプリペイドカード…世界の子どもにワクチンを！の呼びかけの元 協力をお願いしました。  
～世界の子どもにワクチンを！日本委員会経由でユニセフ募金に～（山本直子）

## <西日本会場・活動報告>

京都生協 浅井善子さん（ユニセフサポーター）

ユニセフの年間活動について、特にお年玉募金の取り組みを中心に報告をいただきました。贈呈式実行委員会（5つのブロックで毎年持ち回り）や学習会など、ユニセフサポーターが中心となって取り組んでいる様子が紹介されました。

### 活動交流から、みやぎ生協のユニセフ活動について紹介します。

登録者約300人の「ユニセフ平和ふれんず」。いつでも、入会できます。登録者には会員カードと年3回発行の「平和ふれんずニュース」が届きます。会員カードのうらにはスタンプ欄があり、スタンプ対象企画 例えば「平和セミナー」「原爆パネル展」「ユニセフセミナー」などに参加してスタンプを3つ集めるとCOOP商品券があります。興味のある人への確実な情報。そして楽しく継続的に参加できる企画で、生協の平和活動をひろげていきます。（山本直子）

### グループで出会った…こんな話・あんな人

「私は誰だと思いますが？」、「主婦には見えないでしょ、職員でもないんです」そういう自己紹介してくださった男性は、生協と取引をしている業者さんとのことです。コープ熊本学校生協では平和活動やユニセフ活動には、取引会社の組織も参加して取り組んでいるそうです。組合員と職員が協力して活動している…という話はよく聞きますが、業者さんも参加して活動しているなんておもしろい！生協の活動の新たな可能性を感じました。（谷杉 佐奈美）



勝間さんとの夕食懇親会

## ユニセフ現地報告



「アフガニスタンを取り上げるのですが、同じような状況の国々は世界中にあります。ちょっと私達の想像を絶するような状況に置かれている女性たち、子ども達もいます。日本に

いると想像力をたくましくして考えることは難しいと思うので、現場の状況をお伝えすることが出来ればいいなと思います。」と、国連大学内にあるユニセフ駐日事務所プログラムコーディネーターの勝間さんはアフガニスタンでのユニセフの活動についてお話してくださいました。

勝間さんがユニセファフガニスタン事務所で働いていたときはちょうどタリバンの時代でした。当時、実際にアフガニスタンを支配していたのはタリバンにも関わらず、国際社会はタリバンを正式な政府として認めていませんでした。公式にはタリバンを認めていないけれど、ユニセフが活動をする上でタリバンと交渉をしなければいけない。その中でも最も困難だったのが女子教育だといいます。タリバンは女子の就学を禁止していたため、非公式のホームスクールをユニセフは支援していました。又、タリバンは、国際機関や国際NGOなどでアフガン女性が働くことも、国が西洋化されることを恐れて禁止していました。

今でも、国際機関の教育支援により「国が西欧化されるのでは」と警戒心を持つ人がいますが、「自分達の国を再建するために必要な学びを提供しようとしている」ということを理解してもらうようにしています。ユニセフが何かをするのではなく、アフガンの人人がやる気になってくれないと、ユニセフがいなくなつた後に持続的に活動を続けることはできないからです。そのためにユニセフは長老や宗教指導者と話し合い、彼らがもと

## アフガニスタンでのユニセフ活動

もと持っている価値観に沿って話をし、彼らの**主体性を重視した支援**を行っているとお話してくださいました。

また、男の子は教育を受けられるといつても、長く続いた戦闘で**校舎の8割は破壊**されています。使用されている校舎も天井の崩れそうな廃墟ですが、夏は気温が40度にもなるため外で勉強をするのも困難です。そこで現地の人たちが用意しきれない資材、必要な木材や土レンガを提供して安全な学習スペースの提供も行っています。

なかなか現地に行ってユニセフの活動に参加するというのは難しいですが、勝間さんのお話を聞いて私達のユニセフ協力活動もアフガニスタンでのユニセフの活動に繋がっているんだと感じる1時間でした。日本で私達の行っている協力が、国境を越えてどのように現地の人に届いているのかを見届けに、来年の交流会に参加してみませんか？きっと今まで以上に現地の人たちを近く、親しく感じるようになれると思います。

<日本ユニセフ協会インター 金井雅子>

アフガニスタン緊急募金を受け付けています

郵便振替：00190-5-31000

\*（通信欄に「アフガニスタン」と明記ください）

口座名義：財団法人日本ユニセフ協会



## ベーシックコース(生協でのユニセフ活動を知り・考える)

プログラム のユニセフ講座では、ワークショッピング「貧困のサイクル」をグループに分かれて行い、開発途上国の貧困は悪循環であることを学びました。連鎖のカードの並べ方は4つのグループともスムーズに同じ結果になりましたが、次の「では?どこで断ち切れば連鎖から抜け出せるのか」というテーマでは、とたんにどのグループもにぎやかな意見交換が始まりました。「ここを切ってもあそこの問題が解決しないと…」「いや、やっぱり教育だよ」「1箇所なんて難しい~」…etc 話し合いの合間々には研修会スタッフからのコメントもあり、限られた時間内でしたがユニセフの支援とその考え方を理解できたと思います。

プログラム では、「ユニセフの活動をお知らせする」「募金が集まる」そのためにはどうしたら良いかというテーマでした。設定は無店舗(共同購入・個配)においてです。店舗しか利用していない参加者もいましたが、グループ内で他の活動の様子などを聞いているうちに、オリジナルファミリーBOXコンクール、利

用ポイントを募金に振り替える、OCRの募金単位を小さくする、配送トラックに写真を貼るなど、無店舗の仕組みに合わせたやり方へのアイディアが次々と生まれました。「夏休み親子イベントを考える」というテーマでは、民族衣装や料理なども交えた学習会、水がめやORSを作つて飲む、



ユニセフキャンプ、ユニセフすごろくなど、どのグループの企画も体験型が目立ちました。また全体を通じてユニセフ活動への参加対象が、組合員だけでなく“子どもたちへ”と広がっていることも強く感じました。(谷杉 佐奈美)

## アドバンスコース(今後、地域でさらにユニセフ活動を推進していくために)

### 地域や人々の状況(意識・行動)を考えてみよう

ユニセフの活動内容を知らない  
人が案外いる。関心はあるけど知  
るきっかけがないのかな。

子ども達や若者の参加が広がっ  
ている。地域からも講座依頼がた  
くさんくるよね。

災害などが続き募金の回数が多く  
なると負担に思う人もいるよ。

### 地域に拡がりのあるユニセフ協力活動を進めるためには

**ユニセフを知ってもらおう!**

- 年1回県内の地域持回りで「ユニセフひろば」を開催して関心を広めている。
- ユニセフグッズのセットをつくり、つどいで使って参加者に知らっている。

**参加型の学習会を!**

**講師を育てよう!**

- 命の水を作つて飲む体験学習
- 外国コインの仕分けに子どもたちも参加。
- 講義依頼を受けていくけるようにボランティアを育てていくことが必要。

**募金を募るだけでなく!**

- 様々なイベントでユニセフ活動への理解を求める。
- 募金の合計金額だけでなく、グループや個人名も機関紙に掲載する。
- 募金へのちょっとしたお礼(キャンディー、ようじなど)

(松本真弓)

# この国 どんな国 ?

# スーダンの巻



西部地域では紛争により 120 万人が国内避難民に。今、緊急に母子への救援が必要とされる国。

## 南北の和平の陰で、深刻さを増す西部での紛争

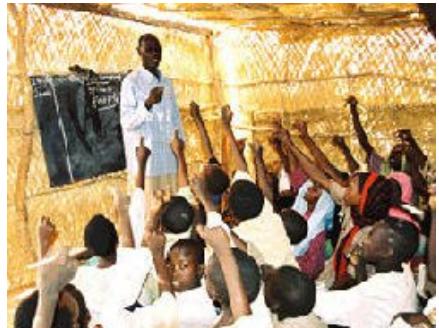
スーダンは、アフリカ大陸の北東部、エジプトの南側にあるアフリカ大陸最大の国です。国土面積は、アフリカ大陸の 1/12 を占め、その広さは日本の 7 倍もあります。ほぼ中央をナイル川が流れ、ナイル川が白ナイルと青ナイルに分岐するところに首都ハルツームが位置しています。



スーダンで、1983 年に北部のアラブ系イスラム主義と南部の黒人キリスト教徒のスーダン人民解放軍 (SPLA) との間で始まった内戦は、2004 年 5 月、スーダン政府と SPLA が包括和平協定調印に至り、和平への兆しが見えてきました。しかし、その陰で、西部のダルフール地域では、2003 年以降、政府と反政府勢力の間で続いてきた紛争が激しさを増し、人道的危機に直面しています。2004 年 4 月、国連が調査団を派遣し、アフリカ連合や EU、アメリカなども解決のために動き出しましたが、いまだに紛争が続いています。

## アラブ系民兵が黒人住民を組織的に虐殺、レイプ

ダルフール地域では、アラブ系遊牧民族とアフリカ系黒人農村民族の間に、歴史的に水と土地をめぐる争いが続いてきました。アフリカ系黒人農民は、1956 年スーダンの独立以降、少数派の自分たちは差別されてきたと訴えてきましたが、1980 年半ばの大干ばつと飢饉を引き金に、アラブ系民兵と黒人主体の二つの反政府勢力の紛争が激化しました。アラブ系民兵組織「ジャンジャウィード」は、スーダン政府の支援を受けて、アフリカ系黒人に対して、大量虐殺、レイプ、暴行などを行い、その悲惨さは、黒人住民への「民族浄化」とも言われています。数百もの村が焼き討ちにあい、作物や家畜は盗まれました。この激しい戦闘により、約 120 万人が国内避難民となり、約 10 万人が隣国チャドへ避難しています。国内避難民の女性や子どもの状態は深刻化し、子どもの栄養不良は 15% が危機レベルとされているのに対し、ダルフール地域では 23% に達しています。雨期に向けて衛生状態の悪化による病気の蔓延も懸念されています。



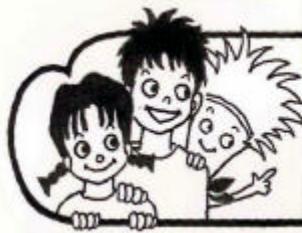
避難民キャンプの中の学校 ©UNICEF

## ユニセフは、さまざまな機関と協力して支援を展開

西部の戦闘の場となった地域は、すでにユニセフより、保健、水、衛生、教育といったサービスが実施されていた地域でした。ユニセフは、更なるサービスを提供していくために、緊急支援アピールを発信し、職員を増員して、支援活動を実施しています。ユニセフは主に、栄養と保健、水と衛生、基礎教育、性的搾取や虐待から子どもを保護する活動の分野で支援を展開。今までに約 40 万人に安全な飲み水が提供されてきましたが、国内避難民の 2/3 はまだ、安全な水を飲むことができず、半数が保健サービスを受けることができていません。治安の悪化やアクセスの制限など障害は多いですが、ユニセフでは、スーダンの政府機関、NGO 等と協力しながら、支援に取り組んでいます。( 尾澤結花 )

スーダンにおけるユニセフの支援活動を支援するため、アフリカ緊急募金を下記の口座にて受付中です。

郵便振替 : 00190-5-31000 口座名義 : 財団法人日本ユニセフ協会 通信欄に「アフリカ緊急募金」と明記してください。インターネットからも募金を受け付けています。( <http://www.unicef.or.jp> )



# 世界の子ども達は今



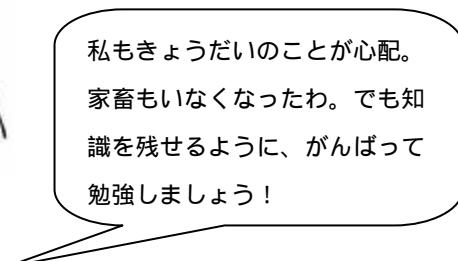
うれしそうに授業を受けている子ども達。ユニセフから支給されたノートと鉛筆と定規を持った子ども達がむき出しの土床いっぱいに座っています。乾季の気温は一番暑い時で43度になりますが誰も不満は言いません。ここチャド東部にある難民キャンプには、うれしそうに授業を受けている子ども達。ユニセフから支給されたノートと鉛筆と定規を持った子ども達がむき出しの土床いっぱいに座っています。乾季の気温は一番暑い時で43度になりますが誰も不満は言いません。ここチャド東部にある難民キャンプには、スーダンのダルフル地域の紛争を逃れてきた11万人の難民がいて、その3分の2が子どもと女性なのです。

(文) 松本真弓 / (絵) 蛭沢素子

その中に10歳のシェクウデン・アダム・イバラヒムちゃんと11歳のマッカ・アッダム・ダウトちゃんがいます。



逃げるときは恐ろしかったわ。  
そのせいか、いつも頭が痛いの



私もきょうだいのことが心配。  
家畜もいなくなったわ。でも知識を残せるように、がんばって  
勉強しましょう！



ユニセフはNGOや難民が立てる学校に学用品や教科書を配ったり、先生を難民から雇って教育方法をトレーニングしたりしているんだって。

## 大学生協の取り組み紹介 名古屋大学生協・ユニセフ班では、名大祭でユニセフを広めました

名大生協ユニセフ班では、6月5日・6日に行われた名大祭で、「ミニ平和資料館&Cafe」(屋内)と、「生協カフェ」(屋外)という名前のお店を、名大生協の他の組織と合同で出しました。

そのうち、ユニセフ関連の活動は以下のようでした。

- ・ユニセフ募金活動…募金額 6,609 円  
(その他、カフェの利益 1,908 円もユニセフ募金しました)
- ・ユニセフカード販売…売上金額 12,290 円
- ・ユニセフ(の活動)についての展示…主にポスターで行いました。



そのときに来ていただいたお客様から、「いろいろな展示物や商品があり、とても新鮮で、勉強になった。」

「掲示物に図や絵が入っており見やすく分かりやすかった。」「ユニセフのような知的好奇心をそそるような取り組みを、他の団体も学園祭でもっと取り上げていくといい。」という感想をいただきました。大勢の方に来ていただき、しかも、私たちの展示を見て感心したり、納得してくださった方多かったです。本当にうれしかったです。こういった点からみると、ユニセフなどの活動を少しでもみなさんに知ってもらう、というこの企画を通しての目標は達成されたように感じます。しかし課題も見えました。今回、学生の来店が少なかったように感じました。今後はいかに学生に、こういった活動を訴えかけていくかが課題となりそうです。

ユニセフ班では、名大祭でユニセフのカード販売などの他にも、フェアトレード商品の販売や掲示、そしてそのコーヒーや紅茶を使ったカフェも行いました。



▲終了後の記念写真

ユニセフ班では、名大祭以外でもユニセフ関連の活動として、**名大生協の店舗にユニセフ募金箱を設置**し、募金活動を行っています。7月に、店舗に設置してあるユニセフの募金箱の認識度調査のアンケートを行ったところ、まだ周知されていないことがわかったので、後期からはもっと多くの学生に知ってもらえるように広報活動にも力を入れていこうと思っています。

また、名大ユニセフ班の活動は名大生協のサイト内にも情報が載っています。是非ご覧ください。

<http://www.nucoop.jp/committee/unicef.html>

今年度はこんな活動をしています。(ホームページより)

- 通年で
- ・広報(生協学生委員会広報誌 Me~dia 記事掲載)
  - ・募金活動(生協購買・書籍に募金箱を設置しています)

4月 新入生歓迎

5月 新第一回学習会 (ユニセフ、フェアトレードなどについて理解を深めます。)

6月 名大祭 (フェアトレードのCafeを出店し、ユニセフ&フェアトレードグッズを販売します。)

10月 第二回学習会 (内容は未定ですが、学習会や講演会の場を持つ予定もあります。)

12月 生協まつり (クリスマスカードなどの販売も行います。)

<名大生協 ユニセフ班 福崎さんから報告のお便りをいただきました。ありがとうございます>

# 各地の夏休み企画を紹介します

## 平和ビデオ上映会＆ユニセフ・アフガニスタン写真展が開催されました～生協しまね～

～雲南支所・平和サークル「ピースウインド」～

2004年7月23日（金）雲南支所平和サークル「ピースウインド」では、夏休みに入った子どもたちと平和について考えようと、平和映画のビデを上映会とユニセフ・アフガニスタン写真展を企画しました。

約30名の子どもやお母さんたちが参加しました。「おこりじそう」と「トビウオのぼうやはびょうきです」を見た後、アフガニスタン写真パネルと支援物資、教育バッグ、教科書、の見学会をしました。特にブルカは関心が高く、試着をして話題にしていました。そして、ユニセフの募金に協力してくれた子どもたちもたくさんいました。

また、平和への思いをタペストリーにする活動への協力で、子どもたちは用意した布がなくなるほど描いてくれましたので、縫い合わせて展示する予定です。

（生協しまね・くらしづくり企画室 安部登喜夫さんから報告を  
いただきました。）



## “七夕平和コンサート”でユニセフ緊急募金活動を取り組みました～コープおおいた～

7月3日、杵築市のコープおおいた本町店で、杵築ブロック委員会と店舗委員会の組合員主催による「七夕平和コンサート」が開催されました。

このコンサートは、阪神・淡路大震災をきっかけに始められて今年で9回目。地元のフルート奏者である安達かずみさんの巧みな演奏とやさしいトークに、会場全体が引き込まれ、親子連れら約60人はフルートとキーボードによる「世界に一つだけの花」「リベルタンゴ」「浜辺の歌」「花」などの演奏に聴き入っていました。とても暑い日でしたが、心地よいフルートの演奏が日々の忙しさへの癒しとなり、あたかもさわやかな風が吹いているようでした。

会場には、広島・長崎の原爆パネルや七夕飾りにこめた平和のメッセージコーナー、アフガニスタン教育支援緊急募金コーナーが設けられ、「一刻も早く戦争が世界中からなくなりますように」や「子どもたちがすくすくと育ってくれますよう

に」といった親子の平和への願いが、短冊に寄せられました。



コンサート後には、「おばけ煙突の歌」というアニメ映画も上映され、若い世代も空襲や焼夷弾の恐ろしさにふれ、平和のありがたさや大切さを考えあうことができ、戦火がやまない世界への想いにあふれた一日となりました。（コープおおいた・組活部 丸尾なおみさんより報告をいただきました）

## ユニセフ俱楽部の発足とユニセフのつどいの開催

～富山県生協～

富山県生協では、04年度からユニセフ俱楽部が発足しました。そして、このユニセフ俱楽部のスタッフが中心となって「ユニセフのつどい」が県内3会場で開催されました。

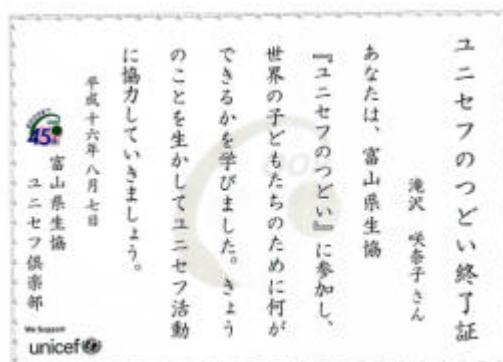


ユニセフ俱楽部は、ブロック協議会からの選出(3名)と公募メンバー(8名)による13名のユニセフスタッフで構成され、年間を通してユニセフ関連企画の運営等に関わっていくことになっています。富山県生協では、03年度のユニセフリーダー研修交流会に参加して企画づくりや全国の生協の取り組みを学び、その後生協での企画づくりを具体化するためにユニセフ俱楽部を発足させました。

富山県生協のユニセフのつどいは、例年夏休み期間中に世界の子ども達の現状とユニセフ活動

について親子で学ぶ企画として取り組まれてきました。今年はユニセフスタッフが中心となって準備が進められ、7月31日に富山ブロック(参加者32名)、8月5日に東部ブロック(28名)、8月7日に西部ブロック(27名)で開催されました。つどいでは、アイスブレイクの後、「教育」を全体テーマとして、読み書きや計算が生活に欠かせないことを学ぶワークショップや、ユニセフの教育支援活動の学習会などを取り組みました。ワークショップはリーダー研修交流会で学んだことを活かして、すべてユニセフスタッフが運営しました。

今後も生協まつりや迎春試食会、組合員交流会で、ユニセフの企画が予定されています。  
(富山県生協・組合員活動支援本部 柴田さんより報告をいただきました)



## ぼむぼむ広場

ぼむぼむ通信の通算25号をお届けします。

全国のユニセフ協力活動の交流誌としての役割はもちろん、世界の国々や子どもたちの様子も積極的に紹介していきます。

全国の活動事例や、ぼむぼむ通信の感想・ご意見をぜひお寄せください。

次回は12月15日発行です。お楽しみに！

## ユニセフ\*コープネットワーク ぼむ・ぼむ通信

No.25 2004年9月15日発行

編集 グループ ぼむ・ぼむ

スタッフ・編集 / 尾澤・谷杉・浜崎・福本・藤森・  
松本・山本・林田・北村・茂垣

イラスト / 蛭沢

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷3-29-8 コーププラザ11階

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://www.jccu.coop/>

## 夏休みユニセフ教室が開催されました 日本ユニセフ協会千葉県支部

8月28日夏休みの最後の土曜日、「親子でユニセフについて学べるといいね！」という主旨で日本ユニセフ協会千葉県支部とちばコープ佐倉地域センターのふたつの地区ネットメンバーとで《夏休みユニセフ教室》を企画しました。会場は、京成佐倉駅に近い「佐倉コミュニティセンター」です。参加者は親子あわせて37名とユニセフボランティアスタッフ5名の合計42名。学校の先生やお父さんの参加もあり、とてもわきあいあいとした会になりました。



ユニセフについての簡単なお話の後、実際にネパールの水がめを運んだり、経口補水療法を学び「魔法の水」の試飲をしました。

そして地雷紙芝居を見て地雷のお話も聞いて、地雷のレプリカも全員で実際にさわってみました。6グループに分かれてのワー



クショップ「難民になつたら…」では、どのグループの大人も子どもも真剣に自分達の気持ちを出し合って取り組みました。「すごく楽しかったし、いろいろと考えさせられました…」など、多くの方から参加してよかったですという感想をいただきました。親子で気持ちを出し合ったり、一緒に学ぶ機会が持てた《夏休みユニセフ教室》。親子のコミュニケーションの場にもなりました。（福本朋子）

（スタッフの感想）経口補水塩の試飲では、前に飲んだ経験のある子ども達は飲みたくない様子…大人は一度試してみたいという思いで全員飲ましたが、感想は「あまりおいしくない…」という声が圧倒的でした。次に地雷紙芝居。とてもわかりやすく子どもも集中して聞ける内容でした。ワークショップ「難民になつたら…」は、子どもも大人も一緒になって意見を出し合って、とても盛り上りました。本当に難民になつたら楽しいとは言えないけれど、学習会にはぜひ取り入れたい内容だと思います。最後にユニセフクイズでしめくくり、あっという間に時間が過ぎた有意義な学習会でした。（酒井奈津子）

## ユニセフ俱楽部の発足とユニセフのつどいの開催 ~富山県生協~

富山県生協では、04年度からユニセフ俱楽部が発足しました。そして、このユニセフ俱楽部のスタッフが中心となって「ユニセフのつどい」が県内3会場で開催されました。

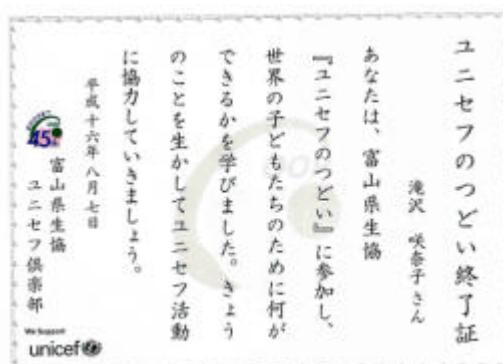


ユニセフ俱楽部は、ブロック協議会からの選出(3名)と公募メンバー(8名)による13名のユニセフスタッフで構成され、年間を通してユニセフ関連企画の運営等に関わっていくことになっています。富山県生協では、03年度のユニセフリーダー研修交流会に参加して企画づくりや全国の生協の取り組みを学び、その後生協での企画づくりを具体化するためにユニセフ俱楽部を発足させました。

富山県生協のユニセフのつどいは、例年夏休み期間中に世界の子ども達の現状とユニセフ活動

について親子で学ぶ企画として取り組まれてきました。今年はユニセフスタッフが中心となって準備が進められ、7月31日に富山ブロック(参加者32名)、8月5日に東部ブロック(28名)、8月7日に西部ブロック(27名)で開催されました。つどいでは、アイスブレイクの後、「教育」を全体テーマとして、読み書きや計算が生活に欠かせないことを学ぶワークショップや、ユニセフの教育支援活動の学習会などを取り組みました。ワークショップはリーダー研修交流会で学んだことを活かして、すべてユニセフスタッフが運営しました。

今後も生協まつりや迎春試食会、組合員交流会で、ユニセフの企画が予定されています。  
(富山県生協・組合員活動支援本部 柴田さんより報告をいただきました)



### ぼむぼむ広場

ぼむぼむ通信の通算25号をお届けします。

全国のユニセフ協力活動の交流誌としての役割はもちろん、世界の国々や子どもたちの様子も積極的に紹介していきます。

全国の活動事例や、ぼむぼむ通信の感想・ご意見をぜひお寄せください。

次回は12月15日発行です。お楽しみに!

### ユニセフ\*コープネットワーク ぼむ・ぼむ通信

No.25 2004年9月15日発行

編集 グループ ぼむ・ぼむ

スタッフ・編集 / 尾澤・谷杉・浜崎・福本・藤森・  
松本・山本・林田・北村・茂垣

イラスト / 蛙沢

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷3-29-8 コーププラザ11階

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://www.jccu.coop/>